

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0170400881), 法人名 (有限会社 ユースフル), 事業所名 (グループホーム 星の家 (2階 織姫)), 所在地 (札幌市手稲区稲穂1条7丁目8番18号), 自己評価作成日 (令和4年7月30日), 評価結果市町村受理日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍になり3回目の夏を迎え、職員は朝から入居者様一人一人のお部屋の窓を開け、換気・消毒をし、そこから本来の仕事に入ります。おかげさまで、現時点で入居者様の感染は出ておらず、安堵しております。ただ、入居者様の外出の機会が極端に減少してしまったことやご家族様方の面会を制限しなければならなかった事は、大変申し訳ない気持ちでおります。また、外食の機会が減ってしまったため、これまで以上に食の楽しみを味わって頂けるように日々の食事に季節感を取り入れ、揚げたてのかき揚げで天井や本格的な天津飯を召し上がって頂くなど、色々趣向を凝らすメニューを用意し手作りで提供させて頂いております。これからの時代、コロナとの共存生活が主流となり、ホームとしても従来の行事など含め、改める所、新しく取り組む所を精査し、理念で謳っている『人格の尊重 楽しみのある空間作り 私たちはこの開かれた地域に愛され信頼されるグループホームを目指します。』に沿って、入居者様が明るく元気で、笑顔が絶えない毎日を過ごして頂けるよう支援に努め、また、ご家族様が安心信頼して頂けますよう日々精進して参ります。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action\_kouhyou\_detail\_022\_kihon=true&JigyosyoCd=0170400881-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (令和4年8月26日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

Empty table box for external evaluation comments.

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 describe various service outcomes and staff/user interactions.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所内やリビングに理念を掲示し、意識をし、スタッフ間でも共有できる様、努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、清掃活動・花壇づくり等への参加「子供110番の家」として、交流に努めている。現在は、コロナ禍の影響により町内会活動への参加は、行われていない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナの影響により、事業所内に町内会の方や外部の方をお招きする事は出来ないが、運営推進会議の議事録により、日頃の取り組みや問題点などを発信している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催している。現在は、コロナ禍により、事業所内のみで、入居者様を交えて行っている。行事や入居者様の様子、不適切対応等について話し合いを行い、サービス向上に役立っている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険更新申請などの各種手続きや事業所の報告は、管理者やケアマネジャーが主に行っており、不明な点等については、アドバイスを頂き参考になっている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設けて、2ヶ月に一度の運営推進会議の時に話し合い、必要性を再確認している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	月1回のミーティングや内部研修で、話し合い、職員間で注意している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	月1回のミーティングでの内部研修のテーマにし、理解する機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、重要事項も含め入居者様やご家族様に十分な時間をかけて説明を行い、各同意書にもご理解を頂いている。料金の改定があった場合にもその都度説明をし、納得を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様の要望・意見等は、会話や動作で受け入れている。ご家族様の要望は、面会時、電話等で、対応している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の個人面談をはじめ、日々の申し送りや毎月のミーティングの際に意見や提案を聞く機会を設け、運営に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の経験年数やスキルの他、家庭環境や身体的影響も考慮し、働きやすい就業環境を整える事に努めている。介護職員処遇改善給付金の支給も年2回行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の職員の経験やスキルを考慮し、外部研修への参加の機会を設け、育成に努めているが、コロナの影響により、研修の機会は、減少している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナの影響により、市や区が主催の管理者会議、親睦会の中止が多いが、リモート会議や電話での交流機会は設けており、サービスの向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に訪問・面談を行い、情報をチーム内で共有し、安心できる関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談や電話などで、要望や困りごと等を聞きご家族との信頼関係を築ける様努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族からの聞き取り情報を現場に伝え、支援が必要かつ可能な事について話し合い、実現に向けて入居前に準備にあたっている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者主体であることを忘れずに暮らしを共にし、支え合える関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍でご本人とご家族の面会時間が限られているが、出来る限りご家族との関係を大切にしながら、共に支えて行く努力をしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	1階・2階で姉妹で入居されており、行き来きされたり、遠方の妹様に電話をかけられるなど馴染みの方との関係が途切れないように支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人の性格、生活のペース等を把握し、職員が介入する事で、孤立せず関わり合えるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居されたご家族様より、近況についてなど、電話等のやり取りがありましたが、コロナ禍により、最近は、関りが持てずにいる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活の様子を職員間で共有し、また、御本人より希望を聞くなど検討し、ケアプランへ反映している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報シート・御家族・御本人との会話の中から、これまでの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の出来る事、出来ない事を把握し、その日の心身状態を観察し、穏やかに過ごせるように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のミーティング・カンファレンスや毎日の申し送りの中で、検討課題が発生した際にその方にあつたプランを作成し、支援に生かしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を介護記録に記入し、個人記録としてファイルし、いつでも見て情報を共有出来るようにし、ケアプランの変更にも役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人・御家族の状況に配慮し、買い物代行・受診の付き添いや入院の際の提出書類の記入を行うなどその時にあつたニーズに柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍により、外出が制限されており、ホームの周りの散歩や外気浴に限られている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、入居の段階でご家族と話し合いながら決めており、定期往診や臨時での往診にも対応している。一人一人の体調を把握して頂き、適切な医療を受けられる体制づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員に日常の様子や特変事項を伝える事で、入居者様が、状況にあった適切な看護を受ける事が出来ている。また、緊急時には、いつでも相談に応じてくれている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、職員が同行し、情報提供を行っている。入院中は、情報交換等、連携を図り、早期退院ができるよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合については、入居時に御家族に説明しており、状態の変化に応じて、再度、意向の確認と今後の方針を共有し、出来る限り支援できる様取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを全職員で共有し、定期的を確認し、話し合い落ち着いて対応できる様努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間を想定し、年4回実施している。消防署や町内会の参加は、コロナ禍の為、行えていない。防災用品の備えもあり、定期的を確認し、補充を行っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常生活の中で、人格を大切に言葉掛けをし、居室で日中過ごされる等、プライバシーに配慮し、関わっている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話の中で、御本人の思いを話せるような関係づくりに努め、実現できることについては、対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調や気分に合わせて、出来るだけ入居者様の希望に沿った支援が出来る様に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問理美容を利用している。また、季節に合った身だしなみや整髪などは、声掛けをしながら支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の下準備や盛り付け・片付け等出来る範囲でして頂き、会話を交えて食事を楽しめる様に努めている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分や食事の提供量は、一人一人の健康状態などにより決まっており、減量・増量や薄味など出来る範囲で変更にも対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施している。ご自分でできる方には、声掛けを行い、必要に応じて介助を行っている。定期的に訪問歯科を受けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で一人一人の排泄状況や間隔が適切でないか等を確認し、声掛けを行う事で失敗を減らせるように工夫している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、牛乳を提供している。また、朝・夕にテレビ体操を実施して、体を動かす機会を設けている。必要量の水分の提供にも努めている。主治医と相談し、下剤による排便コントロールを行う事もある。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日や順番は決まっているが、御本人の体調やタイミングに合わせた支援を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、疲れた様子が見られる時には、居室で臥床して頂いている。夜間は、照明や温度に気を付け、ゆとり休めるように配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ケース記録の中に薬のファイルがあり、確認が出来るようになっている。服薬の支援の時には、職員間で確認するとともに薬の変更があった場合には、連絡ノートに看護師が記入し職員間で共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の力を活かしながらの家事作業のお手伝いや嗜好品の提供、レクリエーション等、楽しい生活空間作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍により、戸外へ出る機会は限定されており、近くの緑地への花見やホーム周辺の外気浴などに限られている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持されている方は、いらっしゃらないが、日用品の購入のためのお預かり金として、ホームで保管をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの電話を取り次ぐだけでなく、希望時や入居者様の状況により、電話をかけ、話される事もある。手紙は、必要に応じ、返事を代筆する事もある。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビの音や室温・湿度・照明の明るさ等に配慮したり、四季にあった壁飾りや廊下には入居者様の写真を掲示し、過ごしやすい空間作りに努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者同士の関係性に配慮した席を工夫し、レクリエーションなどの時には、全員が集まり楽しめる様、机の配置を工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	コロナ禍の為、御家族がホーム内に入ることは出来ないが、家具や普段、使い慣れたものを搬入して頂くことで、入居者様が心地よく過ごす事が出来る環境づくりに努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・階段・トイレ・浴室等に手すりを設置し、転倒防止に努めている。トイレ前には、大きくわかりやすく張り紙を張り、迷わずに使用できる様、配慮をしている。		